

News Letter No. 4



2020年 7月 発行

経口オピオイドのレスキューについて

入院中でも患者の自己管理にすることができます

入院中の患者が自分で痛みの評価ができ、自分の意思で服用を行なう事ができるなど、**自己管理が可能と考えられる場合は、最少量（レスキュー1回分）を患者が自己管理することができます。**

＜厚生労働省：医療用麻薬適正ガイダンスより＞

＃レスキューを自己管理することの意義は何だろう？

- 早期の疼痛緩和を図り、ADL・QOLの維持、向上につなげる
- 退院後の服薬の自己管理方法を身につける（セルフコントロール感を向上させる）

退院後の生活環境を踏まえた管理方法の検討と服薬指導が大切

＃レスキューを看護師管理している場合

患者が痛みを感じて「飲みたい」と要求があってから、実際にレスキューを内服するまでに、どのくらい時間がかかりますか…？

ちなみに…突出痛の定義は

『発生のピークに達するまでの時間は3分程度と短く、平均持続時間は15分～30分で、90%以上は1時間以内に終息する』です

内服のタイミングがズレしまうとレスキューが効果的に発揮出来ない

＃薬剤の種類にもよりますが

レスキューは効果が出るまで約30分～1時間かかります

適切に疼痛コントロールを行なうためには、適切なレスキュー使用が必要です。患者はどのタイミングでレスキューを使用（要求）しているか確認しましょう！「我慢してから」「痛くなってから」ならば、「早めに」「あらかじめ」内服のタイミングを逃さないよう指導しましょう

入院中の患者は『看護師さんと呼ぶのが申し訳ないからと、遠慮して痛みを我慢してしまう傾向にある』ことが多くの研究で明らかになっています

レスキュー自己管理手順を作成しました

電子カルテ → ライブラリ → 緩和ケア

＜レスキュー自己管理手順＞ ＜レスキュー自己管理リーフレット＞ ＜レスキュー使用用紙＞

【レスキュー自己管理カンファレンス】：テンプレート

電子カルテ→記事入力 → テンプレート「看護部」

適切にアセスメントとカンファレンスを行ない自己管理可能な患者には、レスキュー自己管理を導入してみましょう

NRS疼痛評価スケール

電子カルテ → ライブラリ → 緩和ケア

＜NRS疼痛評価シート活用方法＞ ＜NRS疼痛評価師スケール＞

オピオイド導入時やスイッチング時、痛みのパターンを把握したいときなど、必要に応じて使用してみてください

レスキュー自己管理、NRS疼痛評価の詳細は、6/3夜間トピックのナーシングスキル動画で視聴できます（視聴期間7月中）

各部署勉強会いつでも行ないます 緩和ケアチームまでご連絡ください